

(様式第1号)

## エネルギー供給温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

### 1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ				
代表者名	氏名	本多 聡介	役職名	代表取締役社長	
主たる事務所の所在地	〒102-0083 東京都千代田区麹町三丁目7番地4				
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則第15条第2項に該当する小売電気事業者			
	<input type="checkbox"/>	その他の事業者			
主たる事業の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・小売電気事業 食品スーパーや工場等の高圧需要家や、一般家庭等の低圧需要家へ電力を供給しています。</li><li>・省エネコンサル事業 全国の食品スーパーや飲食店等のお客さまに、電気の見える化及び省エネコンサルのサービス提供を行っています。</li><li>・太陽光発電事業 大手協業会社と共に設立した発電事業会社（合同会社）で、太陽光発電所の運営事業や、太陽光発電所の建設事業を行っています。</li></ul>				
電力供給量（総量）	971,228	千kWh	電力供給量（長野県）	13,580	千kWh

### 2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	2017	年度	～	2019	年度	報告対象年度	2019	年度
------	------	----	---	------	----	--------	------	----

### 3 公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧 (閲覧場所・時間等)	
<input checked="" type="checkbox"/>	その他	本件で問い合わせ頂いた場合には、必要に応じて複写を提供する等ご対応いたします。 担当部署：パワーマネジメント事業部 パワートレード課 TEL：03-3230-1280

#### 4 エネルギーの供給に係る地球温暖化対策のための基本方針

##### ■電力供給事業等に係る取組方針

- ①FIT電源の導入のほか、石炭火力電源比率の低減ならびに  
その他再エネを含むCO2排出係数の低い電源導入を目指します。
- ②引き続き、需要家の屋根に太陽光パネルを設置し、設置先に電力を販売する「オフグリッド電力供給サービス」等、  
系統からの供給にこだわらない独自の仕組みで、需要家に自然エネルギーを供給します。  
さらに蓄電池を設置し、それらをネットワークでつなぐことで電力を融通し合うVPPの拡大をいたします。

##### ■その他の温暖化対策に係る取組方針

- ①全国のスーパー、パーラーを中心としたお客様に対し、電力見える化、AIによる需要予測、  
運用コンサルティングを実施し、省エネルギー活動・温暖化対策に貢献しています。
- ②スーパー等に太陽光発電を設置し発電した電気を、来店されたお客様の電気自動車に供給できるよう取り組み、  
将来的には電気自動車を活用し、宅配サービスを展開することで、スーパーを中心にクリーンエネルギーが  
循環するサービスの検討いたします。

#### 5 エネルギー供給温暖化対策計画の推進に係る体制

##### ■電力供給事業等に係る推進体制

- ①当社の電力調達部門である、エネルギー事業本部の請求・需給管理課で、  
電力調達量の管理と共に、CO2排出量の管理も行います。
- ②エネルギー事業本部にて事業を推進します

##### ■その他の温暖化対策に係る推進体制

- ①当社の省エネコンサルサービス提供部門である、エナッジ推進課にて、お客さまの省エネ活動、  
温暖化対策をサポート。
- ②エネルギー事業本部にて営業活動実施し弊社が出資しているVPP Japanにて運営

(様式第1号)

6 供給するエネルギーの製造等に伴い排出される二酸化炭素の抑制に関する目標等

基準年度	実排出係数	0.000587	t-CO2/kWh
2016年度	調整後排出係数	0.000552	t-CO2/kWh
目標年度	目標排出係数	0.000560	t-CO2/kWh
2019年度	目標削減率	4.60	%
目標設定に関する説明	石炭火力電源比率の低減、その他再生可能エネルギーや未利用エネルギー導入により排出係数の削減に努めます。		
第一年度	実排出係数	0.000606	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000594	t-CO2/kWh
2017年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	279	千t-CO2
排出係数等の増減理由	2017年度については相対電源で石炭火力由来の電源比率が上がったことにより排出係数が上昇していますが、電源構成の見直しを実施し、2018年度より改善見込みです。		
第二年度	実排出係数	0.000502	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000462	t-CO2/kWh
2018年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	360	千t-CO2
排出係数等の増減理由	2018年度については、電源構成の見直しを実施し減少しております。		
第三年度	実排出係数	0.000410	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000365	t-CO2/kWh
2019年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	401	千t-CO2
排出係数等の増減理由	2019年度についても、電源構成の見直しを実施し減少しております。		

(様式第1号)

7 上記6の目標を達成するための措置

<p>・再生可能エネルギーの導入の検討</p>
-------------------------

8 調達する電気の電源構成に関する見通しと実績

区分		調達する電気の電源構成の割合 (W・h比)				
基準年度	石炭火力	0 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	0 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	56 %
2016年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	0 %	その他 (他社から卸売を受け、 発電所の特定ができない電気)	44 %
最終年度 における 見通し <sup>※1</sup>	石炭火力	0 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	0 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	0 %
2019年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	1 %	その他 (他社から卸売を受け、 発電所の特定ができない電気)	99 %
第一年度	石炭火力	0 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	0 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	59 %
2017年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	0 %	その他 (他社から卸売を受け、 発電所の特定ができない電気)	41 %
第二年度	石炭火力	0 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	0 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	0 %
2018年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	0 %	その他 (他社から卸売を受け、 発電所の特定ができない電気)	100 %
第三年度	石炭火力	0 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	0 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	0 %
2019年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	0 %	その他 (他社から卸売を受け、 発電所の特定ができない電気)	100 %
備考	<p>■卸電力取引所から調達した電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなど様々な電源から供給された電気が含まれます。</p>					

※1 「最終年度における見通し」欄には、基準年度時点における事業者の電気の調達計画等の見通しに基づき、特定期間の最終年度を算定期間とする電源構成の概算の見込み割合を記載する。

※2 「FIT電気」とは、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく認定施設から買い取られた電気で、その調達費用の一部が全電気利用者が負担する賦課金により賄われている電気を指す。

※3 「卸電力取引所」とは、電力の卸取引を行う取引所であって、電気事業法第97条第1項に規定される指定を受けた卸電力取引所を指す。

(様式第1号)

9の1 再生可能エネルギー源により発電された電気の調達量に関する見通しと実績

区分	調達量				再生可能エネルギー源の種類 (内訳)				
					電源	種類別調達量			
	県内分		再生可能エネルギー 電気(FIT電気を除く)			FIT電気			
基準年度	0	千kWh	0	千kWh	太陽光	0	千kWh	0	千kWh
					風力	0	千kWh	0	千kWh
					水力	0	千kWh	0	千kWh
					バイオマス	0	千kWh	0	千kWh
					その他 ( )	0	千kWh	0	千kWh
2016年度									
最終年度 における 見通し	1,000	千kWh	7	千kWh	太陽光	0	千kWh	1,000	千kWh
					風力	0	千kWh	0	千kWh
					水力	0	千kWh	0	千kWh
					バイオマス	0	千kWh	0	千kWh
					その他 ( )	0	千kWh	0	千kWh
2019年度									
第一年度	0	千kWh	0	千kWh	太陽光	0	千kWh	0	千kWh
					風力	0	千kWh	0	千kWh
					水力	0	千kWh	0	千kWh
					バイオマス	0	千kWh	0	千kWh
					その他 ( )	0	千kWh	0	千kWh
2017年度									
第二年度	0	千kWh	0	千kWh	太陽光	0	千kWh	0	千kWh
					風力	0	千kWh	0	千kWh
					水力	0	千kWh	0	千kWh
					バイオマス	0	千kWh	0	千kWh
					その他 ( )	0	千kWh	0	千kWh
2018年度									
第三年度	0	千kWh	0	千kWh	太陽光	0	千kWh	0	千kWh
					風力	0	千kWh	0	千kWh
					水力	0	千kWh	0	千kWh
					バイオマス	0	千kWh	0	千kWh
					その他 ( )	0	千kWh	0	千kWh
2019年度									
備考									

(様式第1号)

## 9の2 再生可能エネルギーの普及・供給拡大に関する取組

当社が出資しているVPP Japan株式会社（合同会社）で、太陽光発電所の運営事業や、太陽光発電所の建設事業を行っています。  
需要家の屋根に太陽光パネルを設置し、設置先に電力を販売する「オフグリッド電力供給サービス」等、系統からの供給にこだわらない独自の仕組みで、需要家に自然エネルギーを供給します。  
さらに蓄電池を設置し、それらをネットワークでつなぐことで電力を融通し合うVPPの拡大を目指しています。

## 10 エネルギーの供給に係る温室効果ガス排出抑制の研究と取組

全国のスーパー、パーラーを中心としたお客様に対し、電力見える化、AIによる需要予測、運用コンサルティングを実施し、省エネルギー活動・温暖化対策に貢献しています。

## 11 需要家の省エネルギー対策の推進に関する取組

区分	実施内容
高効率機器の普及促進	太陽光発電・蓄電システムの自家消費接続により、温室効果ガス排出量を削減できる設備機器システムの建設事業も行っています。
家庭・事業者の省エネルギー対策への協力	需要家への、当社省エネコンサルサービスを通して、運用改善を中心とした省エネ提案を実施し、地球温暖化対策推進の意識の向上に努めています。
その他	・地球温暖化対策に寄与する料金メニュー（深夜の電力利用の割合を増やす等）も検討していきたいと考えています。

※ 需要家に対して節電や省エネを誘導する料金体系を導入している場合は、「その他」に記載する。

(様式第1号)

12の1 地域との連携に関する取組の実施状況

基準年度までに実施した内容	特にございませぬ。
第一年度実績	特にございませぬ。
第二年度実績	特にございませぬ。
第三年度実績	特にございませぬ。

12の2 その他、温暖化対策に関する取組の実施状況

区分	実施内容
基準年度までに実施した対策	自社オフィス内での不在時で不要な照明の消灯、および、不要な空調の停止の実施。
第一年度実績	自社オフィスの節電活動
第二年度実績	自社オフィスの節電活動
第三年度実績	自社オフィスの節電活動

(様式第1号)

1.3 自由記載欄

A large rectangular area filled with a light blue color, representing a free text field. The area is bounded by a thin black border and occupies most of the page below the header.